
開 会 挨拶

京都産業大学 学長 大城 光正

皆さん、こんにちは。本日は、会場の代表といたしまして、ご挨拶申し上げます。

大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムは、高等教育の資質向上と京都からのFD活動の情報発信を目的に1995年より開催し、今年で第23回目となります。今回は、京都産業大学がFDフォーラム会場校となり、この神山ホールにて、全国から大勢の方々をお迎えできることを大変光栄に思っております。ご参集に感謝を申し上げますとともに、このフォーラムの企画・運営に協力を頂きましたFDフォーラム企画検討委員長の佐藤賢一先生をはじめ、委員会の先生方にも厚く御礼を申し上げたいと思います。

ここで、少し本学の紹介をさせていただきます。京都産業大学は「大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成」を建学の精神として掲げており、特に重視するのは幅広い教養・知識と国際社会で活躍できる専門知識の修得に加えて、建学の精神にうたわれている、豊かな人間性と高い倫理観を持った人格形成の確立であります。また、2015年には創立

50周年を迎えました。この大きな節目の年を、これからの50年を見据えたさらなる飛躍への契機と位置付け、2030年に本学のあるべき姿を描き、われわれが目指す大学像を現実のものとするため、新ブランドデザイン「神山STYLE2030」を策定し、社会から選ばれる大学を目指して教職協働の下で力強く邁進しているところであります。

改革を進めるにあたり、大学教職員の力は不可欠であります。特にFDに関しては、教育支援研究開発センターを中心に、各学部と連携して教員の能力向上や教育力向上にも努めております。それゆえに、今回、本学でFDフォーラムを開催できることを大変うれしく思っているところであります。

本日は神山ホール、明日は本学キャンパス内のサギタリウス館、12号館での開催となります。2日間の日程の中で活発な議論を展開していただき、日本の高等教育がいつそう花開くきっかけとなりますことを祈念いたしまして、甚だ簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。

F D フォーラム企画検討委員長挨拶

京都産業大学 総合生命科学部 教授 佐藤 賢一

皆さん、こんにちは。今日は、このように多くの皆さま方をお迎えすることができて、非常に嬉しく思っています。私自身は総合生命科学部という生物系の学部所属しており、普段はカエルの卵と戯れている毎日を送っておりますが、学内のF Dを主管する部署である、教育支援研究開発センターの教員メンバーとしてセンター長を務めております。

このF Dフォーラムとは4年前に龍谷大学で開催されたF Dフォーラムで登壇者の一人として、授業アンケートの取り組みについて事例報告をさせていただいたのが最初で、それ以降は、毎年分科会を企画・担当させていただく形で、この取り組みに関わってきました。それまでは、研究の現場でいろいろな人とのつながりを実感する学会や、研究会などにたくさん出ることによって非常によいものをもらえると、思っていました。教育あるいは大学の運営のことを、ひざを突き合わせて、いろいろな課題を出し合って話し合う場があることを、長い間、あまりよく知らないでいたのですが、このF Dフォーラムが私にとっては非常に刺激的で、過去4年間、いろいろな企画を作る過程で、多くの先生方、職員の方、あるいはF Dフォーラムを主管されている大学コンソーシアム京都の皆さまとつながってきたことが、実感として非常にあります。今回は自分がこのF Dフォーラムに関わるようになり、ついに京都産業大学での開催ということで、委員長という役を担当さ

せていただいておりますが、これまで同様に、この2日間は皆さまにとって、また私自身にとっても非常に刺激的な場であることを願っています。

私がいる京都産業大学のF D主管の部署である教育支援研究開発センターでは「対話」という言葉をキーワードに、取り組みを進めています。「対話」にはいろいろな意味があります。大学の中で言えば教職員同士、あるいは教職員と学生、さらには学生同士といった対話の姿があると思いますが、「対話」を進めていくのはどういうことかと考えたときに、私が一番関心を持っているのは、お互いに「問い」を持つことです。

この2日間、皆さんはいろいろな取り組みをご覧になる、あるいは見聞されるかと思えます。ご自身の所属先の課題に対する解決策が探れないかといった切り口で、参加されている方もいらっしゃると思います。私自身もそうです。ですが、それに加えて、ぜひ新しい「問い」をたくさん見つけていただいて、あるいは周りの方がどんな「問い」を持っているのかをたくさん集めて、お持ち帰りいただき、それぞれの現場で共有していただきたいと思います。解決策以上に「問い」を共有することが、「対話」を促すのではないかと考えています。どうか実りのある2日間になりますよう、皆さまの活発な、積極的な参加を期待しております。